

# 平成20年度第1回 柏市緑の基本計画・市民懇談会

日時 平成20年8月19日(火) 午後1時30分～3時30分  
場所 介護予防センターいきいきプラザ 研修室(1)

## 会 議 次 第

1. 開会
2. 都市緑政部長挨拶
3. 議題
  - (1) 昨年度のまとめについて
  - (2) 計画の骨子について
4. 地域別ワークショップ
5. 地域別発表
6. 今後のスケジュールについて
7. 閉会

# 第1回柏市緑の基本計画策定市民懇談会 ワークショップの手順

本日のワークショップの目標は、これまでの話し合いを踏まえ、  
“地域の緑の将来像について話し合い、その将来像の実現に向けて、どのよ  
うな取り組みが重要なのか、などについて整理する”ことです。  
本日の話し合いの成果は、地域別構想の材料にいたします。

0

今回の内容を説明します。

5分

1

地域の緑の将来像について意見を出します。

30分

あらかじめ考えてきていただいた、地域の緑の将来像などについて、出し合います。一人ずつ書いた意見を読み上げながら、ふせんに書き、台紙に整理します。

緑の将来像とは、

- ・地域の緑のあるべき方向
- ・地域らしい緑を守り育てるための目標
- ・地域の緑への思いを伝えることば などです

時間がありましたら、市全体の将来像についての意見もお書きください。

2

地域における重要な取り組みなどについて意見を出します。

30分

地域の緑の将来像を実現するために、あるいは地域の緑の課題を踏まえて、特に重要な取り組みについて、ふせんに意見を書き、台紙に貼ります。

- ・地域の重要な取り組み
- ・みなさんができる取り組み など

それぞれの取り組み内容について、具体的なアイデアなどもお書きください。

3

地域ごとに発表します。

25分

話し合いの内容や感想を発表してください。

## 地域別発表内容

北部地域

将来像・テーマ

### 地域の貴重な緑の資源を活かした街づくり

(利根川・利根運河・松葉町のケヤキ並木・吉田邸・こんぶくろ池・柏の葉公園・ケヤキ並木)

利根川・利根運河沿いの緑は財産(シンボル)

- ・ 利根川の景観を生かした自然の美しさを PR できるスポットづくりをしていく(運河～新大利根～手賀沼 バイパス計画とあわせて)

- ・ 利根と自然に会える街

かつての生態系の構築

- ・ 壊された生態系の構築
- ・ 大青田の森の再生
- ・ 子供が入れる里山づくり

緑の保全・維持・育成

- ・ TX 沿線開発と緑の保存・育成
- ・ 市場移転に伴う市場機能と緑地共生
- ・ 点から線へ、面へ(こんぶくろ池や柏の葉公園をつなぐ緑化 公設市場移転後に公共施設(図書館・美術館)をつくり、こんぶくろ池・柏の葉公園・キャンパス駅周辺と広げ面にしていく)

緑の利用(体験)

- ・ 緑で癒しのできる街
- ・ 緑で体づくりのできる街
- ・ 緑で Rally のできる街
- ・ 市民でつくるみどり緑

点から線・面へと結び、広げる

- ・ 点から線へ、線から面に広がる緑づくりで京都議定書や洞爺湖サミットへ協力し柏市が中心で活動しているモデルをつくる
- ・ 樹林が大きく枝を伸ばせる環境づくり 街路樹が丸坊主になっている。枝を切りすぎると桜などは枯れたり花をつけない。

都市計画との調和

- ・ 都市計画との調和のとれた街

## 重要な取り組み

### 緑の保全・維持

- ・ 公園緑地はなるべく自然のままで残すようにする
- ・ 民有地の緑の保全・維持・管理
- ・ 大青田の森の整備 地権者への緑地維持のメリット提示
- ・ 学校・公園等の公共施設の緑化推進

### 緑の利用方法

- ・ レクリエーションコースの設定と PR
- ・ フルマラソンコースづくり（利根運河から北柏サイクリングコースの結合でコースをつくり沿線を緑化する）
- ・ 河川利用の可能性の具体化（堤防や河川敷の利用、堤防下の植林、遊水地の利用、河川敷への散策路の形成）

### 整備のあり方

- ・ 公園・緑地等にはコンクリート建築物はつくらない
- ・ 開発中の所や街路樹のある所は電柱を建てないで地下へ入れる

### システムづくり

- ・ NPO 法人との連携システムづくり
- ・ 地権者の了解のもとボランティア組織による山林等の整備（子供がカブトムシなどを採取できるような落葉樹林などの植樹）
- ・ こんぶくろ池における市民参加型緑化維持

### 税制等の支援等

- ・ 保全のための税の軽減を図る
- ・ 地権者に対する税制面からの優遇措置
- ・ 荒れた森を再生するにはお金がかかるので 10 ヶ年計画を立て国・県・市の補助金が出るよう計画する
- ・ 柏の緑は人為的に守り育て広げていく緑なのでボランティアだけの緑化や里山保護は限界があるので税・予算・長期計画の工夫が大切

### 市民への意識啓発

- ・ 地域住民への意識強化を図り住民一人ひとりが自分たちの住んでいる地域を守っていくのだという意識にさせる（自然を大切に生活していこう）
- ・ 里山の利用と整備
- ・ 緑の保護地区マップづくりを PR する
  - A 現状の緑を守り整備・保存に努める（利根川・こんぶくろ）
  - B 現状を維持しさらに緑を増やす努力をする（松葉町・柏の葉）
  - C 現状よりさらに緑化の工夫を要する（大山台（モラージュ）・16号沿い）
- ・ 記念樹（誕生・成人・結婚・還暦等）花でもマンションなら可
- ・ 北部地区荒地一掃作戦（業者）ボランティアでも可
- ・ 開発地区の緑部分を 1/3 にする 公園の設置 市の管理をきちんとする
- ・ 緑を守るにはお金がかかるので予算化する
- ・ 学校教育カリキュラムへの導入（緑の大切さ、里山についてなど）

緑豊かな柏の顔

重要な取り組み

**緑の保全**

- ・ 緑を守る・つくる・質を高める・育てる
- ・ 既存緑地の保全
- ・ シンボルとなるみどりをつくる（日立台・緑ヶ丘野馬土手から駅前へつながる）
- ・ 土地提供者の地主を顕彰をする
- ・ 民有地の場合は、地主の方に文章や写真・資料等を配布し緑地の重要性を認識してもらう
- ・ 里山活動団体の紹介・活用
- ・ 維持管理方法の指導（必要なのは高木か低木かなどを明確にすること）
- ・ 「緑の推進員（ふるさと協議会）」の活用（「推進員」を核として地域の人をとりこんだネットワークを形成する）
- ・ アルバイト農業者育成（耕作放棄地、休耕田を（定年退職者等）素人で農業希望者へ 有機・無農薬栽培で）

**市街地の緑の創出**

- ・ 市役所敷地内の緑化
- ・ 壁面緑化・屋上緑化の推進
- ・ 駐車場の高層化（民間資本の導入 コンビニ・スーパー）
- ・ 公共空間における可能なレイアウトの検討（駅前・公共施設の建替え時 小さな水場の設置を含む）
- ・ 公共空間における可能な樹木の検討（落葉か常緑か、根の張り方、強風対策）
- ・ 緑の情報提供
- ・ 安全な緑の確保（災害時の避難場所や河川、浸水、水害の防止）

**街と緑の調和**

- ・ 中心市街地の緑化
- ・ 駅の緑化、駅周辺の緑化
- ・ 柏の顔として柏駅の東口も西口と同様に緑を増やす
- ・ ダブルデッキや屋上の緑化を図る
- ・ 小さな緑・水を創出する
- ・ 駅を中心とした緑のコンテストを行う
- ・ ガーデン・デザインの検討を行い綺麗な花壇を整備する
- ・ 緑のリーダーを育成する
- ・ 「緑のステーション」などの官・民のコーディネート団体をつくる
- ・ 手賀沼の環境を良くする基金、松ヶ崎城址を守る基金などの目的別の基金をつくる
- ・ 市債を発行する
- ・

## 市全体

- ・ 柏百景をつくりそのウォーキングイベントを行い収入をみどりの保全に充てる
- ・ 緑の効果の検証を行い地主の方を表彰する

## 南部地域

### 将来像・テーマ

#### 将来像

- ・ 緑の拠点や里山を守り、多様な生き物と共に暮らすまち
- ・ 特徴的な拠点の緑や自然をいかし守り育てるまち
- ・ 緑の点在をしっかりと保持する（民有地なども含め）
- ・ 日々の暮らしの中に緑が息づくまち  
（歩いて行ける距離にある多様なみどり）
- ・ 身近な緑から地球に思いをはせるまち（身近な樹林地とCO<sub>2</sub>削減）
- ・ 土地所有者、市、市民の協働により緑を守るまち

#### 方針的な内容

##### 守る・減らさない(面・点の緑)

- ・ 調整区域は骨格の緑として守る
- ・ 現在の拠点の緑をしっかりと保持する
- ・ 点在する緑を守りたい
- ・ 地域内の農地を保全維持する
- ・ 空いている農地の活用（農家をやってみたい人が増えている。日本の食料自給率は40%。方法を考えるべき）

##### 緑をつなぐ(線の緑)

- ・ 大津川とその支流の自然を保持・再生し、水と緑の回廊にする
- ・ 水辺の整備 道路だけでなく河川などは中をできるだけそのままにし、両側に歩行者または自転車のための道を整備する
- ・ 杉並木、桜通り、けやき通りとかあるように、各通りに名前をつけてはどうか。植栽するべき道もあると思う。（シバザクラ、ハナミズキ、カエデなど）
- ・ 住民が憩える街並み景観をつくる（新柏桜並木の再生・整備など）

##### 公園整備

- ・ 系統だった公園の整備をすすめる。地区・近隣公園に重点をおく
- ・ 現在ある公園の近くに森林(樹林)があるとき、地主から市が借りることができれば、里山として活用する。

## 重要な取り組み

### 拠点に関すること

- ・ 拠点の所有者・市・市民による懇談会を設置し、それぞれの思いや課題を共有し合い、保全への方向性を見出す
- ・ 拠点の緑・公園・緑地等には、その特性や保全・利用の基本理念などを明示する
- ・ 拠点の緑の再点検・再構築・強化（現況把握・課題・方向づけ）
- ・ 緑の保全に協力する地権者の意見・思いを地域住民の意見以上に重視する。（落ち葉、伐採、処理対応など）

### 樹木の保全に関すること（拠点とも関わる）

- ・ 保護樹林・樹木指定方針を見直し、戦略的・効果的なものにする
- ・ 歴史、文化財、湧水、生物多様性などを評価した保全の優先順位を定める
- ・ 社寺木の保全を支援する
- ・ 開発に伴う保全の規制強化
- ・ 大学（例 広池学園）や企業などと積極的に緑化（緑地）協定を結ぶ

### 緑の維持 市民参加・協働

- ・ 地権者、ボランティア、行政が協働して維持管理するシステムづくりをする
- ・ 拠点ごとに維持・管理・保全のための地権者・市・市民による組織作りと植生管理計画の作成 維持・管理・保全の具体的な協働
- ・ 自治会等偏重の維持管理を改め、コーディネーターにおいてNPO等に委ねる
- ・ 里地・里山の維持管理には、ボランティアの育成も必要
- ・ 花や植樹は金がかかる。金のかからない方法を考え種から育てる
- ・

### 資金

- ・ 緑のトラスト制度（緑の基金中心で）
- ・ 長期償還（30～50年）の市民債発行で拠点の緑を買い受ける
- ・ 緑の基金の中に特定のポケット（どこどこの樹林のための等特定目的の財源となるような）をつくる
- ・ 規模の大きい緑の基金を設け、これを核に市民の協力金を集めて資金基盤をつくる
- ・ NPOなどによるトラストを積極的に誘導・支援する

### PRや意識改革

- ・ 緑の拠点の樹林地に看板を設置 「この林には 本の木があり、年間 ものCO<sub>2</sub>を吸収しています」「所有者・市・市民により管理保全されています」など
- ・ 緑の維持・管理の活動のPRが必要
- ・ 市民の意識改革の取り組みが必要
- ・ CO<sub>2</sub>を緑で補うカーボンオフセット等市民が緑の保全に参画する運動を推進する

## 農地

- ・ 農家の指導のもとで市民（リタイヤ世代）が農業生産に参加・参画する仕組みづくり

## 公園

- ・ 柏市の公園にはトイレが少ない。大きな公園には設置してはどうか

## 沼南地域

### 将来像・テーマ

- ・ 豊かな緑を守り、生かした里づくり（手賀と風早では緑に大きな違いがある）
- ・ 里山をいかした 街（人が住んでいるイメージ）
- ・ 人と自然（緑）の共生

里山をいかす 人と緑の共生

## 重要な取り組み

### 緑をいかす

#### 斜面林

- ・ 風早地域の斜面林はゴミだらけなので整備する
- ・ 地主さんの理解のうえで放置されている斜面林の整備・活用 ボランティア募集、整備団体の紹介

#### 里山

- ・ 里山の中に公園をつくる、里山で遊べるようにする
- ・ 里山をいっぱいづくり、きれいにする
- ・ 谷津・水辺周辺を含めて保存・整備する
- ・ 山林・農地（田・畑）等の放置・休耕地を利用した憩い・休息・体験の場づくり（地域住民・ボランティア・希望者の募集、助成金交付）

#### 農地

- ・ 緑に親しみたい人のために休耕地を活用した市民農園

#### 寺社

- ・ 手賀区と片山区では一緒に神社を掃除している
- ・ 神社仏閣を緑を取り入れた区域の休息・憩いの場の提供やマップづくり

#### 河川

- ・ 県で進めている大津川の多自然型川づくりと連携する
- ・ 自然を活かした川づくりを市でも進める
- ・ 橋や河川の支流に親しみやすい名前をつける

#### 散策路

- ・ 里山・斜面林と遺跡・寺院等を結ぶハイキングロードの整備
- ・ 手賀沼自然ふれあい緑道にトイレを

#### 優良田園住宅

- ・ 手賀地区だけでなく、たくさんつくってほしい
- ・ 構想に示されているように緑や農地を残す住宅づくりを徹底する
- ・ モデルとして注目されているので市でもバックアップを
- ・ 単価や排水の問題があるが、デベロッパーが入り進められている様子

#### 生き物

- ・ 貴重な生き物の生息地の保全（地域指定やボランティアの活用）

#### 景観

- ・ 緑地や水辺の景観を損なう恐れのある建造物の設置規制（看板・塔・建築物等）

#### 緑の創出

- ・ 地域の有識者による住宅緑化促進運動の展開

#### PR や普及啓発する

- ・ 地域の環境美化を含めた意識の高揚（住民などへの PR）
- ・ 緑化は防災の役割が大きいことを機会あるごとに市民に訴える
- ・ 沼南の斜面林は旧柏市民にあまり知られていないので PR を（地球温暖化防止の役割を含め）
- ・ 山林所有者としての長所・短所を感受している（市民にも知ってほしい）
- ・ どれほど緑が失われてきたのか数字でおさえる

#### 税制の優遇措置など

- ・ 相続税の優遇措置（手賀の丘公園方式）
- ・ 現状の税制度では将来像が描けない
- ・ 樹木の保護に対する支援措置（枝の処理の野焼きも許可してほしい）

#### 計画の推進のために

- ・ 市民の意見を取り入れ、反映する仕組み
- ・ 計画の実行計画（アクションプラン）をつくり、計画の進捗を市民に報告する
- ・ 行政が緑の保全に対して継続力を保持できるか